

東濃地域医療を守る連絡会

だより NO5

★3/24 県懇談会を開催

三月二十四日かねてから申し入れていた県との地域医療の懇談会を行いました。参加者は「多治見の地域医療を考える会」「土岐市総合病院の存続を求める市民の会」「東濃厚生病院を残すことを求める会」「恵那市の医療をよくする会」から一名ずつ、「中津川市の医療をよくする会」から二名、連絡会事務局長、県社保協会長、保険医協会から一名、日本共産党岐阜県議中川さんと秘書の合計十二名、県からは、医療整備課長の伊藤正憲さん他五名の方が出席されました。

懇談は、連絡会が申し入れた三つの問題点に県側が回答するという形ではまりました。内容は以下の通りです。

一、東濃医療圏の五つの病院を含む、四二四病院のリストと「再検証」の要請を白紙撤回するよう、国に要請してください

回答：いきなりリストが公表され、不信感と混乱をもたらしたと県も思っている。国も真摯に受け止めて対応すると言っている。

具体的には、地域ごとの説明会、総務省、厚生省との懇談の場を設けるなど計画し、新年度予算に財政支援策を打ち出した。

リストの公表自体は、将来の病院のあり方についてしっかり協議してほしいというのが目的で、病院そのものの統廃合ではない。将来をデータによって機械的に決める物でもない。二〇二五年の必要病床数2057床は目的ではなく参考（現在2738床）

地域医療構想実現に向けて努力するが、結論ありきではない。

二、地域の医療ニーズを正確に把握し、必要な医療を、質が高く、不足なく提供するという視点で、「地域医療構想」そのものを「再検証」してください。

回答：住民の皆さんに地域医療構想をしっかりと明したかといわれれば、不十分だったと思うと言わざるを得ない

県民と一緒に協議する場、「県民セミナー」を開こうと思っている。いずれにしても地域医療構想は、県民のみなさんと前向きに考えて行きたい。

二、地域医療を守る喫緊の課題として医師不足を早急に解消してください

回答：岐阜県は医師不足県、人口十万人に対する医師数は全国三七位。

これを全国三三〇の医療圏で分析すると、

岐阜医療圏は医師充足、飛騨と西濃医療圏は不足、東濃と中濃医療圏はどちらでもない。という結果となる。

しかし実際にはどこも医師不足なので知事も医師を増やすと言っている。具体的には岐大に地域枠（奨学金あり）二八名、その他の大学に十名、自治医科大学に僻地医療を願っている。

東濃医療圏は医師充足でも不足でもない圏域にランクされていると聞いて愕然とした。

参加者からの意見

*坂下病院は診療所になってしまった。四月から内科の若い先生がきてくれることになったようだ。住民としてはせめて整形が欲しいと願っている。

*病院の役割は地域によって様々だが、その地域の雇用を確保できるというのも重要な要素、一度崩壊すると再建は不可能。

公的病院は命を守る砦として、すべての市に必要だと思ふ。

